

山陽特殊製鋼株式会社
2025年中期経営計画の見直しおよび
2023年度第1四半期決算説明会（Web説明会）
質疑応答（要旨）

開催日 2023年7月28日（金）
出席者 代表取締役社長 宮本 勝弘
取締役常務執行役員 高橋 幸三
常務執行役員経営企画部長 八並 敬之

Q. 2023年度第1四半期の一過性影響16億円は期初の計画に織り込んでいたか。織り込んでいなかったとすると、通期の経常利益200億円は前回公表値対比で下振れともとれるが、下期は保守的にみているか、感触を教えてください。

A. 一過性影響16億円は期初の計画では織り込んでいなかった。2023年度に入り、スクラップ市場別価格差や為替影響が発生したということ。業績の見直しに関しては、販売数量が必ずしも高くない中で、下期の数量を保守的に見直した。また、2024年1-3月は価格面で販売環境悪化のリスクを織り込んでいる。エネルギーコストが今のまま低位で推移すれば、今の計画より改善の余地はあるのではないかとみている。

Q. 2023年7月の配当方針の改定で連結配当性向35%程度が基準に追加されたが、通常の連結配当性向35%程度とのれん償却除き30%程度はどちらを優先して適用するのか。

A. その時々々の利益水準に応じて、基本は通常の連結配当性向のほかに、のれん償却除きの配当性向、1株当たり配当額水準や成長投資の所要資金など総合的に勘案する。

Q. O v a k o の販売数量減少に関して、C N 鋼材のプレミアムにより同業他社に対し価格面で不利になり、シェアを落としているということはないか。

A. 欧州においてはC N 鋼材であることで引き合いがあると認識しており、販売数量の減少はシェアを落としているということではなく、マーケットの影響と認識している。

Q. O v a k o の2022年度第4四半期から2023年度1四半期のマージンの低下について、あまり今までこのようなことはなかったと思うが、内容を教えてください。

A. 特異な事象が発生しているわけではなく、インフレによるコストアップ影響や販売構成の変化、スクラップサーチャージのタイムラグ影響がマイナスで出ていることなどの複合的な要因による。

Q. 中期経営計画の見直しについて。利益の変化の内訳を教えてください。

A. 当社単独、O v a k o ともマージン改善の影響を織り込んでいる。また、数量面では現時点での拡販の見通しやE V 化の影響などを織り込み、より確度の高い数値に見直した。

Q. 2023年度第2四半期以降の当社単独のマージン改善、在庫調整を含めた販売数量の想定について教えてください。

A. マージンの改善は、2022年度に上昇してきたエネルギーコストの販売価格への転嫁が進むことが大きい。販売数量に関しては、当社事業はサプライチェーンが長いこともあり在庫調整の進捗によっては増加もあり得るが、現時点ではこの程度の水準で慎重にみている。

Q. 中期経営計画において利益が拡大し政策保有株も売却を進めるとすると、キャッシュが出てくると思うが、その配分をどのように考えているか。また、中長期的な成長シナリオについてはどのように考えているか。

A. 企業の成長という観点から、財務体質の改善だけが進めば良いとは考えていない。CNに向けた投資としてO v a k oの水素プラントの他拠点への展開などが考えられる。企業価値・プレゼンスの更なる向上に資する機会についても探索は常に行っており、それらを検討し、実行していくということではないか。

以 上

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料でなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づき当社が判断したものであり、不確定要素を含んでおります。従いまして、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願い致します。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。